

令和元年度大阪連続講座

平成の大阪をふりかえる

2019年は平成から令和への年号改元という新しい時代の幕開けの年です。1989年に昭和から平成へと年号改元が行なわれ、約30年の間に現在に直接つながり、印象に残るようなさまざまな出来事が起こりました。今年の大阪連続講座は、「平成の大阪をふりかえる」と題し、平成時代の大阪で起こった出来事を切り口に大阪の歴史や文化について、4名の講師に語っていただきます。

7月6日(土)第1回 大阪市営地下鉄の歴史とOsaka Metro 誕生

講師：伊原 薫 氏（鉄道ライター）

7月13日(土)第2回 平成時代の文楽

講師：久堀 裕朗 氏（大阪市立大学大学院文学研究科教授）

7月20日(土)第3回 大阪と防災

—阪神・淡路大震災、大阪府北部地震、台風21号—

講師：河田 恵昭 氏（関西大学社会安全学部社会安全研究センター長・特別任命教授）

7月27日(土)第4回 平成の博物館とその前史 —学芸員が見た時代の変化—

講師：船越 幹央 氏（地方独立行政法人大阪市博物館機構 学芸員）



「地下鉄高速度電車」大阪市立図書館デジタルアーカイブより

● 時間 午後2時から4時（開場 午後1時30分）

● 定員 各回300名（当日先着順）

● 入場無料

● 会場

大阪市立中央図書館 5階大会議室

▼ 主催・お問い合わせ ▼

大阪市立中央図書館

大阪市西区北堀江4-3-2 電話：06-6539-3302

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp>

★手話通訳等ご希望の方は申込が必要です。

各回とも開催日の3週間前までに、お名前・ご連絡先・講座名を明記して、手話通訳等希望とお申込みください。（FAX 06-6539-3335）



★Osaka Metro 千日前線・長堀鶴見緑地線西長堀駅7番出口すぐ

第1回 7月6日(土) 大阪市営地下鉄の歴史とOsaka Metro 誕生

平成30(2018)年4月1日に大阪市交通局が民営化して、Osaka Metroに生まれ変わってから1年あまりが経ちました。大阪の地下鉄が街の発展にどうつながっていたかをふりかえると共に、民営化で変わることや変わらないこと、また鉄道が人々の生活にどう関わっているのかを考えます。

伊原 薫 氏(鉄道ライター)

1977年大阪府生まれ。関西大学工学部建築学科卒。都市交通政策技術者(京都大学大学院交通政策研究ユニット)。ゼネコン勤務を経て鉄道ライターとなる。『鉄道ダイヤ情報』『鉄道ジャーナル』『JTB時刻表』などの鉄道雑誌をはじめ、『関西ウォーカー』『Yahoo!ニュース』『東洋経済オンライン』などでの執筆、テレビ出演や公共交通に関する講演など幅広い分野で活躍。著書に『大阪メロ誕生』『『技あり!』の京阪電車』などがある。

第2回 7月13日(土) 平成時代の文楽

文楽(義太夫節の人形浄瑠璃)は、大阪で生まれ育った伝統芸能です。平成20(2008)年には「人形浄瑠璃文楽」がユネスコの無形文化遺産にも登録されています。本講演では、大阪を代表する芸能の一つである文楽の歴史をたどりながら、特に平成時代の文楽をふりかえり、その成果や変化、問題点などについてお話しします。

久堀 裕朗 氏(大阪市立大学大学院文学研究科教授)

1970年大阪府生まれ。京都大学文学部卒。大阪外国語大学(助手・講師・助教授)を経て、現在大阪市立大学大学院文学研究科教授。研究テーマは日本近世文学、主に人形浄瑠璃史。主な著書に『上方文化講座 義経千本桜』(共編著)、論文に「近松浄瑠璃における作品構想の連関—『堀川波鼓』『松風村雨束帯鑑』『鍵の権三重帷子』を例に—」「淡路座の『仮名手本忠臣蔵』—現行文楽との相違とその価値—」などがある。

第3回 7月20日(土) 大阪と防災—阪神・淡路大震災、大阪府北部地震、台風21号—

大阪湾沿岸には縄文時代の遺跡が極端に少ないのは、人が住んでいなかったのではなく、遺跡の大半が、過去に発生した津波と高潮によって流失したためです。このように、大阪は歴史のかつ地域的に、災害の危険性が高い地域です。今後の災害に備え、これまでの災害をふりかえり、防災、減災について解説します。

河田 憲昭 氏(関西大学社会安全学部社会安全研究センター長・特別任命教授)

工学博士。専門は防災・減災・縮災。現在、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長(兼務)のほか、京大防災研究所長を歴任。京都大学名誉教授。09年防災功労者内閣総理大臣表彰、10年兵庫県社会賞受賞、14年兵庫県功労者表彰、16年土木学会功績賞、17年アカデミア賞、18年神戸新聞平和賞受賞。現在、中央防災会議防災対策実行会議委員。

第4回 7月27日(土) 平成の博物館とその前史—学芸員が見た時代の変化—

私が大阪市立博物館の学芸員になったのは平成5(1993)年のことでした。それから26年、大阪の博物館界は大きな変貌を遂げました。一方、明治から昭和にかけても、多様で豊かな博物館施設の展開がみられます。一学芸員が体験してきた博物館の歩みとその前史についてふりかえります。

船越 幹央 氏(地方独立行政法人大阪市博物館機構学芸員)

1964年、京都市生まれ。1993年、大阪市立博物館の学芸員となり、大阪歴史博物館などを経て、2019年より現職。専攻は日本近代史・文化史で、大阪・京都を中心とした市民生活・文化を研究している。主な著書に『看板の世界』(大巧社)、『モダン道頓堀探検』(共著、創元社)、『大阪の橋ものがたり』(同)などがある。企画した主な展覧会に「万博開封」、「阪神タイガース展」、「大阪/写真/世紀」などがある。

関連企画

Webギャラリー

「平成の大阪」前史

6月1日(土曜日)から8月31日(土曜日)

平成の大阪で起こった主な出来事の前史について、江戸期から昭和初期にかけての当館所蔵の資料をご紹介します。

★大阪市立図書館デジタルアーカイブにて公開

3階ケース展示

「平成の大阪をふりかえる
—その前史とともに—」

6月21日(金曜日)から9月18日(水曜日)

平成の大阪で起こった主な出来事とその前史について、当館所蔵の関連資料を展示します。